

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業 完 了 報 告 書

1 本事業の趣旨・目標

本校は人権教育を継続して取り組んでおり、最近ではそれに加え平成22年度からE S Dに取り組み、平成24年12月にユネスコスクールに登録を果たしている。E S Dの柱はこれまでの流れを受け継ぎ、人権教育である。また本校の道德教育も、人権教育を中心に展開してきており、今はE S Dと一体となって進めている。つまり本校の教育活動は、人権教育を柱とした道德と生活科や総合的な学習の時間を中心に、他の教科、特別活動等と連携を図りながら、各学年のE S D年間指導計画やE S Dカレンダーに則って進められている。

人権教育の継続的な取組とE S Dの展開により、仲間への思いやりや学校や地域を大切にする気持ちが育ってきている。しかしそれが道德的実践力となっているかといえはまだまだ不十分である。例えば仲間同士の挨拶はできるがそれが地域の人へとは広がっていない。そうじはまじめにするが、自主的に判断して行うことはまだ不十分である。学年やクラスで地域をよくしようと考え働きかけをしているが、道德的心情の高まりが十分図られているかといえは、未知数である。したがって、今後は地域やそこに生活する人々の思いについて考え、そこから学習課題を見つけ、地域に働きかけていく実践を積み重ねていく必要がある。

そこでキーワードとなるのは、「思い」である。仲間への強い思い、それを発展したかたちでのクラスや学校や地域への思い（愛）である。それを育むために、自己肯定感を育て、自分を好きになる取組をしていきたい。自分を好きになれば、友達を認め、思いやることができる。さらにクラス、学校、地域への思い（愛）へとつながっていく。「思い」を大切にし、E S Dで実践していくことで、道德的判断力や実践力が育っていくであろう。

2 本事業成果の検証方法（目標達成状況等把握のための方法）

- ・児童向けE S Dアンケート（1月）
- ・年2回（5月と1月）愛知県教育委員会作成の意識調査の実施。
- ・児童・教員・保護者対象の学校評価アンケート（1月）の実施。
- ・授業記録（作文、ワークシート、板書、授業実践用アンケート等）。

3 本事業の実施内容

＜取組の概要＞

（1）テーマ

「地域に根ざした創意工夫あるE S D活動と道德教育の連携」
—道德的心情の高まりが生み出すE S D活動—

（2）授業実践の充実

ア 思いやりや郷土愛を中心に据えた道德的心情の高まりの育成

（ア）E S Dカレンダー（E S Dの取組が、道德や生活科や総合的な学習の時間を中心に、他の教科、特別活動等と関連していることが分かる月別に示したチャート図）の中に道德を位置づけ、道德とE S Dの取組の連携を強化する。

（イ）外部講師を招いて、思いやりや郷土愛を中心に据えた道德的心情の高まりを促す授業研究会を開く。

イ 道德の授業と並行して、道德的実践の場としてのE S D活動実践の展開

（ア）各学年のE S D活動テーマ

1年：学校周辺や幼稚園・保育園との交流	2年：地域の商店街や施設との交流
3年：地域の福祉	4年：地域の自然環境
5年：地域の産業	6年：地域の文化遺産

（イ）道德の授業と並行してのE S D活動 実践の展開

- ・ 地域の人々の人材活用による地域を知る活動
- ・ 地域で学んだことを発信する活動
- ・ 地域に貢献するための具体的な行動

ウ 自己肯定感を高める学級活動の取組

高学年を中心とした取組として、４年ではソーシャルスキルトレーニング、５年では、ハッピートークトレーニング、６年ではアサーショントレーニングを行う。

4 本事業の実施経過

月	実施内容	備考
4 月	・ 研究主題・研究仮説の設定 ・ ESDカレンダー、総合学習年間指導計画作成	
5 月	・ みんなで学校をきれいにしよう。(ESD) ・ 2年町探検をしよう。(ESD) ・ 意識調査の実施	
6 月	・ 3年福祉について知ろう。(ESD) ・ 6年地元の歴史、文化を調べよう。(ESD) ・ 道徳学習会(小牧中学校校長 玉置崇先生) ・ 道徳学習会(愛知教育大学教授 鈴木健二先生) ・ 5年ハッピートークトレーニング①	外部講師 外部講師 外部講師
7 月	・ 6年アサーショントレーニング① ・ 1年育てた花を地域の人たちにプレゼントしよう。(ESD) ・ 5年地元の産業を学ぼう。(ESD) ・ 道徳研究授業・事後研究会(愛知教育大学教授 鈴木健二先生) ・ シンキングツール学習会(関西大学教授 黒上晴夫先生)	外部講師 外部講師
8 月	・ 他校実践に学ぶ。(東浦町の取組) ・ 夏休みを利用した地域調査(5・6年)	
9 月	・ 3年地元の民俗舞踊「カッポレ」を覚えよう。(ESD) ・ 4年構成的グループエンカウンターを体験しよう。 ・ 5年ハッピートークトレーニング②	外部講師
10 月	・ 2年町の商店街、公共施設を探検しよう。(ESD) ・ 道徳公開授業(道徳教育推進校視察) ・ 3年デイサービスセンターを訪問して、民族舞踊「カッポレ」を披露したり、歌を歌ったりして交流しよう。(ESD) ・ 6年ハンセン病に対する世間の誤解を取り除こうと力を注がれた地元の小笠原登先生の活動を知ろう。(ESD) ・ 6年アサーショントレーニング②	
11 月	・ 他校実践に学ぶ。(ESD子ども会議、ポスターセッション) ・ 道徳学習会(愛知淑徳大学非常勤講師 柴田八重子先生) ・ 総合学習発表会(ESD)	外部講師
12 月	・ 3年人にやさしいまちづくりについて考えよう。(ESD) ・ 4年ドリームマップを作ろう。(ESD)	

1 月	・ 5 年ハッピートークトレーニング③ ・ 6 年甚目寺観音節分会に向けての大掃除（E S D） ・ 学び合いに関する学習会（愛知教育大学教授 土屋武志先生） ・ 意識調査、アンケート調査、学校評価アンケートの実施 ・ 1 年老人会の人たちと一緒に伝承遊びをしよう。（E S D） ・ 4 年自分の夢を語ろう。（E S D） ・ 5 年生学び合いの授業実践（名古屋女子大学講師 鈴木公司先生）	外部講師 外部講師 外部講師
2 月	・ 5 年甚目寺観音手作り朝市出店。（E S D） ・ 6 年地域の歴史遺産を守るために行動しよう。（E S D）	
3 月	・ 6 年アサーショントレーニング③ ・ 研究のまとめ	

5 取組の成果と課題

＜道徳教育の抜本的改善・充実に係る成果の概要＞

（1）教員の力量向上

5 人の先生を招いて、6 回の学習会を行った。道徳の教材開発、指導方法、指導案検討や授業研究などを模擬授業を入れながら行ったことで、全職員の力量向上が図られた。学んだことは、後日教務がレポートにまとめ、全職員に配付し振り返りが出来るようにした。

（2）全職員による道徳の授業公開

学んだことを、10 月 16 日の愛知県道徳教育推進会議委員の方々の視察日に、一斉に授業公開した。E S D との連携を図った授業、シンキングツールを使った授業、本年度の研修を生かした授業の 3 つのパターンを公開した。

ドラえもんやペットボトルなど、身近な教材を使つての教材開発に関して高い評価を受けた。また道徳と E S D との連携や、シンキングツールの活用については他の学校へ広めてほしいという評価をいただいた。

（3）海部地区現職教育研究総合的な学習部会への学校代表レポートの提出

5 年生の実践レポートを提出した。4 月から 8 月までの 1 学期を中心とした実践であった。総合的な学習の時間と道徳を連携させ、シンキングツールを使って話し合いを行い、見つかった課題をもとに取材活動に出かけた実践は高い評価を受けた。後日論文にまとめ、海部地区の論文審査を受け、トップ入選を果たした。また、各地で計 8 回この実践をもとにプレゼンを行い、研究内容を広めることが出来た。

（4）自己肯定感を高めるトレーニング

4 年生のソーシャルスキルトレーニング、5 年生のハッピートークトレーニング、6 年生のアサーショントレーニングは、甚目寺小の自己肯定感を高める系統的な活動である。そのうちの 5、6 年生は、外部講師を招いて行っている。こうした人間関係を学ぶ学習は、人間関係が希薄となりがちな現代っ子にとっては、非常に重要である。こうした活動が土台となって、学校生活を円滑に過ごせ、楽しく学校生活を送れ、しいては自己肯定感を高めることになっている。

（5）道徳的实践力の育成

11 月の総合学習発表会で、各学年は学んだことを親やお世話になった人と呼んで発表した。その後は地域を応援する活動に移った。6 年生は、話し合つて甚目寺地区の象徴である甚目寺観音を節分行事の前に掃除しようと決めた。親や地域の人にも呼びかけようとポスターを自主的に作った。5 年生は、手作り朝市に参加して、自分たちで作った地元の特産物である大根や地元を応援するグッズを作つて販売と併せて宣伝しようと準備を進めている。全部自分たちで何をしようか考えてい

る。それだけ意欲が高まっている結果であり、道徳との連携の成果ともいえる。それぞれの学年が工夫を凝らして3月まで活動が続く。今まで実践を積み重ねてきた成果が、地域を思う心となって道徳的実践力の育成につながっている。



6年生 甚目寺観音境内掃除



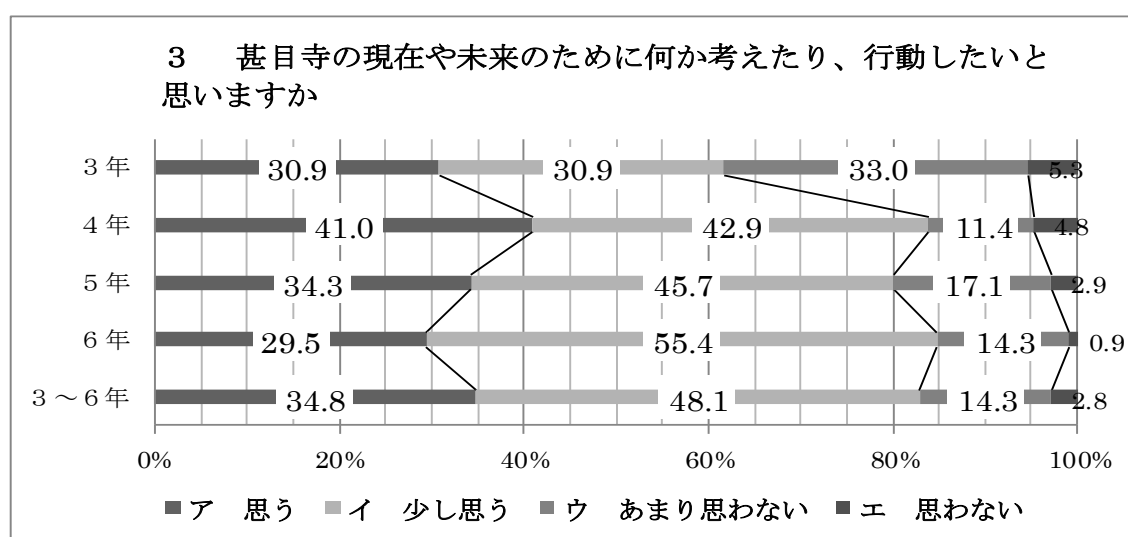
建物内の掃除もやりました



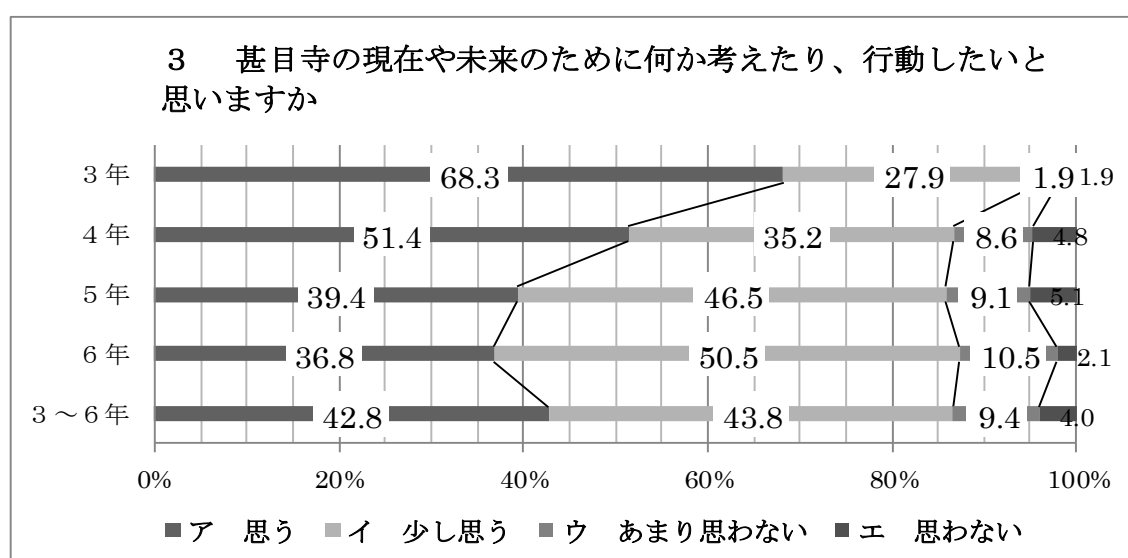
節分会に参加しました

<調査から見られる成果>

(1) 地域に根ざした創意工夫ある道徳教育の取組



平成26年1月のアンケート調査結果



平成27年1月のアンケート調査結果

調査名	アンケート調査	
調査項目	郷土愛	
回答項目	甚目寺の現在や未来のために、何か考えたり、行動したいと思いますか。	
調査対象	種別	1. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他（ ） ※該当を囲んでください。その他の場合は、（ ）に記載。
	学年等	3年生から6年生全児童
調査時期	第1回（事業開始時）	第2回（事業終了時）
	昨年1月	本年度1月
回答結果 割合等	99%	98%
結果の考察	道徳と連携する必要性を痛感した象徴的なアンケートである。アンケートは、3種類とっており、最初二つは、「甚目寺をすばらしい町、よい町だと思いませんか」（全校児童調査）や「甚目寺を自分の『ふるさと』として大切にしたいと思いませんか」（全校児童調査）である。こちらの二つは、どちらも昨年思うと答えた児童が、66.5%と69.7%と高かった。 しかし、「甚目寺の現在や未来のために、何か考えたり、行動したいと思いませんか」（3年～6年児童調査）は、思うと答えた児童は、昨年はわずか34.8%と大変低かった。そのため、情意面を育てる取組を今年行おうと改善を図った。その結果、42.8%と8%増加した。8%に有意差はないかもしれないが、プラス方向に動いていることは評価できるだろう。 一方、最初の二つのアンケートも、66.5%と69.7%から70.3%と74.6%とさらに増加した。取組始めて1年である。これからも着実に道徳と総合学習との連携を図っていくならば、さらなる向上が期待できるはずである。	

<その他の成果>

講師の先生を招いての勉強会を何度も開いた。全員が勉強会に参加することで、甚目寺小の現職教育の足並みが揃うというよさを体感出来た。また、全員の力量向上が図られるというのもすばらしかった。数人の先生が学校視察をして、報告を受けたり、行っていない教員が資料を受け取ったりする以上に、効果があると感じた。

<今後の課題>

道徳とESDの活動を連携していくために有効な手立てとしては、道徳の自作教材開発が挙げられる。ただし、道徳の自作教材は、作るのに大変時間がかかるため、今後も学年ごとに年に一つか二つずつ増やしていきたい。

また、話し合いから課題を見つけたり、課題を解決したりするための仕分け作業については、課題に応じて様々なシンキングツールがある。これらを児童が自ら見つけ出して使っていけるように引き続き習熟させていきたい。また、仕分けした後の話し合いについては、解決に向けて適切な話し合いができ、高め合っていけるようさらなる研究を続けていきたい。

人間関係作りについての学習も4年生からではなく、1年生から計画的に取り組んでいけるようにしていきたい。